



大規模災害から身を守る



能登半島地震をはじめ、今年に入り震度5弱以上の地震が多発しています。また、近年全国各地で、台風や大雨による河川の氾濫や土砂災害が頻発・激甚化し、大きな被害が出ています。

地震や風水害から身を守るためには、災害発生時に落ち着いて行動することが重要です。災害発生時の対応を事前に確認し、日ごろから災害への備えを万全にしましょう。
担危機管理課☎94-4865

備えることで救える命

地震

家具類の固定と住宅の耐震化

平成7(1995)年の阪神・淡路大震災では、死因の約8割が家屋の倒壊や家具類の転倒による圧死や窒息死でした。就寝時は最も無防備になるので、寝室での家具類の転倒防止や配置の工夫などを優先的にいきましょう。

木造住宅耐震改修工事等補助制度

昭和56(1981)年5月31日以前に建築された木造住宅の耐震診断や耐震改修工事、除却工事費用の一部を助成しています。詳しくは建築住宅課(☎94-4783)へお問い合わせいただくか、市ホームページをご確認ください。右のQRコードからも閲覧可



ブロック塀や組積造の塀などの自己点検

平成30(2018)年の大阪府北部地震では、ブロック塀の倒壊による犠牲者が出ました。倒壊した塀は、道路をふさぎ、避難や救助活動の妨げにもなります。所有者は日ごろから安全点検を行いましょう。

危険ブロック塀等撤去等補助制度

地震の際に倒壊の危険性があるブロック塀や組積造の塀、万年塀などの撤去や、安全な工作物への入れ替えにかかる費用の一部を補助します。詳しくは市ホームページをご確認ください。右のQRコードからも閲覧可



地震発生時の避難

- 緊急地震速報**：窓やドアを開けて出入口を確保。身の安全を守る。
- 地震発生**：シェイクアウト(①姿勢を低く②頭を守り③動かない)行動を取る。
- 揺れが収まったら**：ラジオや防災行政用無線などから情報を収集。コンロや暖房器具などの火を消す。隣近所の安全を確認し、消火・救出活動を開始。
- 避難開始**：避難するときはブレーカーを切る。高齢者や障がい者などの要配慮者を支援しながら、決められた避難場所に徒歩で移動。

風水害

日常的に家屋の点検を

風や雨が強くなってから屋外で点検を行うのは危険です。台風が発生しやすい時期に備えて、必要があれば修理や補強をしておきましょう。

- 屋根**：瓦やトタンのひび割れ、ずれをなくす。アンテナをしっかりと固定。
- 窓ガラス**：ひび割れ、破損、ぐらつきがないか確認。飛散防止フィルムを貼り付ける。
- ベランダ**：強風に飛ばされそうなものは置かない。
- 屋外の設置物**：プロパンガスのボンベはしっかりと固定。
- 雨どい**：つなぎ目のはずれ、塗料のはがれがないか確認。土砂や落ち葉で詰まらせないように掃除しておく。
- 雨戸**：がたつきがないように補強。

浸水想定区域と土砂災害(特別)警戒区域の確認

ハザードマップで自宅が浸水や土砂の影響を受ける場所であるか調べておきましょう。災害時に避難が必要な場合に備え、避難所や危険箇所を把握し、安全な避難経路を確認します。実際に歩いておくと、落ち着いて避難できます。ハザードマップは市ホームページからご覧いただけます。右のQRコードからも閲覧可



浸水想定区域…大雨による河川氾濫(外水氾濫)や側溝、内水ハザードマップ排水路、下水道から水があふれる水害(内水氾濫)が想定される区域
土砂災害(特別)警戒区域…土砂災害が発生した場合に住民などに危害が生じる恐れがある区域

気象情報を確認する習慣を

風水害対策の基本は情報収集です。テレビやラジオ、インターネットなどで日ごろから気象情報を確認する習慣を身に付けましょう。

風水害発生時の避難

緊急度 **低** → **高**

- 警戒レベル1 早期注意情報(気象庁が発表)**：最新の気象情報を確認
- 警戒レベル2 大雨・洪水注意報(気象庁が発表)**：避難先・経路を再確認
- 警戒レベル3 高齢者等避難(市が発令)**：高齢者や障がい者、妊産婦などの要配慮者がいる場合は、危険な場所から避難する。その他の人は避難の準備または、自主的に避難。
- 警戒レベル4 避難指示(地域の状況に応じ、緊急的に市が発令)**：速やかに危険な場所から避難する※移動が危険な場合は、近くの安全な場所や自宅のより安全な場所(高いところ)へ避難
- 警戒レベル5 緊急安全確保(市が発令*)**：既に災害が発生、または切迫し、避難できない状況。命の危険があるため、直ちに身の安全を確保。

*市町村が災害の状況を確実に把握できるものではないなどの理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません



備えあれば憂いなし 非常持出品と備蓄の準備

非常持出品の準備

自宅から避難所に移動する時に持参するもので、男性15kg、女性10kgが目安です。両手を使えるリュックサックなどに必要最低限のものをまとめ、すぐに持ち出せるよう準備しましょう。



非常持出品チェックリスト

<input type="checkbox"/> 食料(3日分)	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	<input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人3L)	<input type="checkbox"/> 給水袋	<input type="checkbox"/> お薬手帳
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> マッチ・ライター	<input type="checkbox"/> トイレレットペーパー	<input type="checkbox"/> 身分証明書(マイナンバーカードや運転免許証)
<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 現金	<input type="checkbox"/> 健康保険証
<input type="checkbox"/> 軍手・ロープ	<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 通帳
<input type="checkbox"/> 救急セット	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 健康保険証
<input type="checkbox"/> レジャーシート	<input type="checkbox"/> 笛・ブザー	<input type="checkbox"/> 通帳
<input type="checkbox"/> アルミ製保温シート	<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 火山対策用備品(ゴグル・マスク)
<input type="checkbox"/> 着替え・タオル	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	
<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ	

ローリングストック方式で家庭備蓄を

災害復旧までの数日間を自足するために最低でも3日分、できれば1週間分を準備しておきましょう。普段から少し多めに食料や日用品を買っておき、日常生活で古いものから順に使い、消費した分を買い足す、ローリングストック方式での備蓄がおすすめです。

災害情報ツールを活用

災害時にはいち早く情報を収集することが身の危険を減らすことにつながります。被害を最小限に抑えるために、情報収集手段について事前に確認を切り取りて目立つ場所に貼っておきましょう

防災行政用無線(防災いせはら) 防災情報を迅速かつ的確に伝達する放送設備です。防災いせはらテレホンサービス(☎050-3204-1788)では、24時間以内に放送された防災行政用無線の内容を確認できます※通話料は有料	くらし安心メール 気象情報や避難情報をメールで配信します。登録は下のQRコードを読み取るか、isehara@emp-sa.smart-gov.jpに空メールを送信してください。	緊急速報メール NTTドコモ、ソフトバンク、KDDI(au)、楽天モバイルの携帯電話端末を市域エリア内で利用されている人に対し、避難情報などを配信します。登録は不要です。	FMラジオ放送 FMヨコハマ(84.7MHz)や湘南ナパサ(78.3MHz)で、災害時に市の防災情報を聞くことができます。
市ホームページ 避難情報などの緊急情報を配信します。同時アクセスが集中しても情報提供できる災害モード機能を搭載しています。	市公式SNS LINE、X、Facebookでは災害時、避難情報などの緊急情報を配信します。	VACAN Maps 各避難所の開設情報や混雑状況をWeb上で確認できます。市ホームページ、または右のQRコードから閲覧できます。	巡回広報 避難対象地域の地域住民に対して、消防団車両などによる巡回広報を行います。
神奈川県雨量水位情報 市内の雨量や河川の水位をWeb上で確認できます。県ホームページ、または右のQRコードから閲覧できます。	神奈川県土砂災害警戒情報システム 土砂災害警戒情報をWeb上で確認できます。県ホームページ、または右のQRコードから閲覧できます。	気象庁ホームページ 気象警報、注意報、土砂災害警戒情報のほか、大雨による災害発生危険度を地図上で確認できる「キキクル」を公開しています。	データ放送 デジタルテレビのデータ放送で、市の避難情報を確認することができます。



いつ起こるか分からない大規模な地震

令和6年能登半島地震

本市では、発災直後から職員の派遣や救援物資の提供、募金などの支援を行いました。市の防災対策においても、能登半島地震での教訓を生かした取り組みを進めます。



伊勢原で危惧される地震

神奈川県周辺は複数のプレートが集中しており、大規模な地震の危険性が指摘されています。



市内で想定される主な地震

地層・断層	最大震度	30年以内の発生確率*1
都心南部直下地震	6強	70%
南海トラフ巨大地震	5強	70%
東海地震	5強	70%
三浦半島断層群の地震	6弱	6~11%
大正型関東地震	7	0~5%
伊勢原断層	7	0~0.003%*2
神奈川県西部地震	5強	明示なし

*1 参考 神奈川県「地震被害想定調査(平成27年3月)」
*2 参考 地震調査研究本部地震調査委員会「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧(2024年版)」

災害時の協力者を募集しています

市内で災害が起きた場合に協力していただける事業所やボランティアを募集しています。詳しくは担当へお問い合わせください。

防災協力事業所
災害時に人的・物的支援を提供いただき、自主防災会と連携することで防災力の向上を図ります。

災害時井戸水協力の家
大規模災害により、上水道が断水した場合に、市内の家庭が所有する井戸の水を、近隣住民の皆さんに無償で提供させていただきます。

災害ボランティア
災害が発生した際に、避難所で炊き出しや要配慮者の支援、救援物資の仕分けなどを行います。また平常時には、防災知識・技能習得のため研修会や訓練で災害に備えます。年齢や居住地は問いません。

